

経営比較分析表

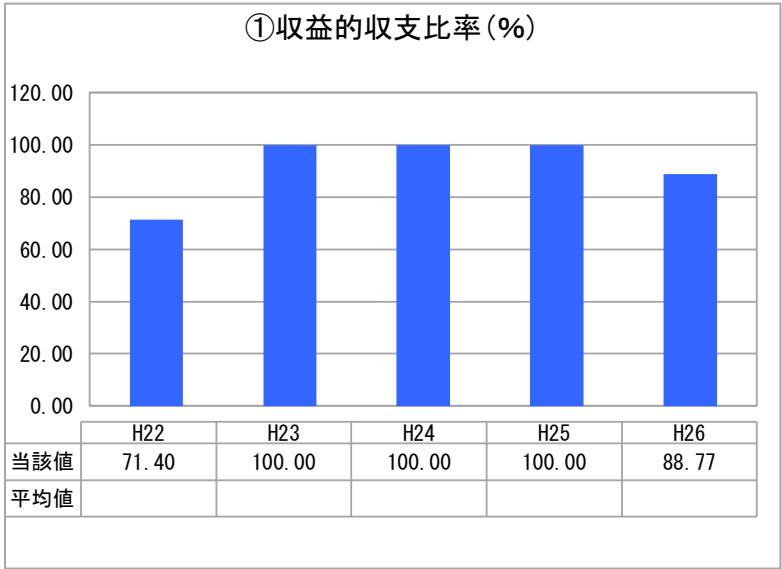
北海道 八雲町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	13.63	99.57	3,564

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,852	956.02	18.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,408	1.92	1,254.17

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



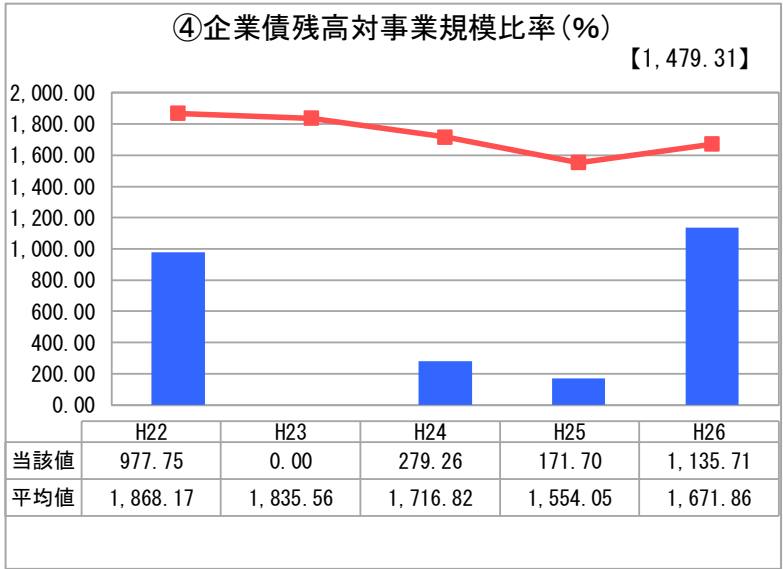
「単年度の収支」



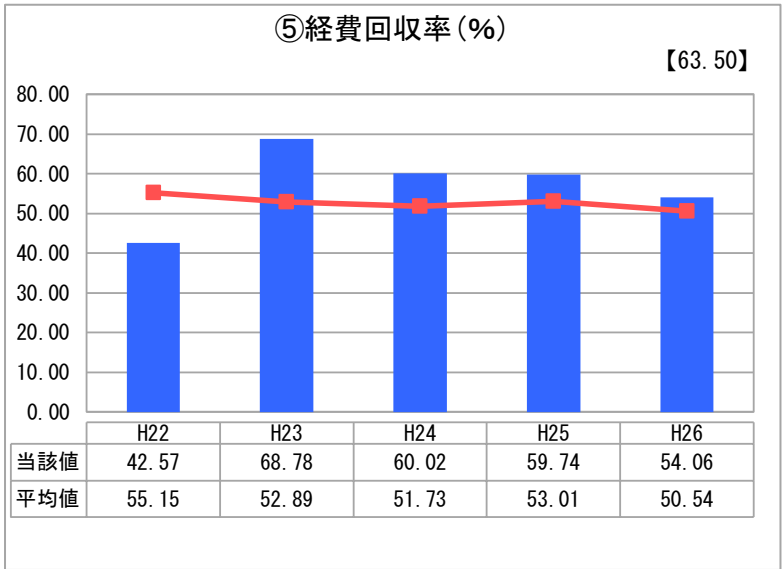
「累積欠損」



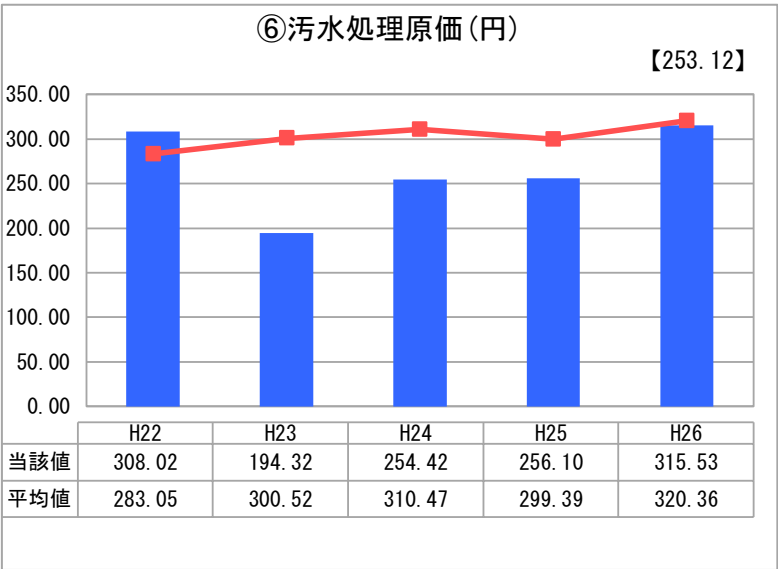
「支払能力」



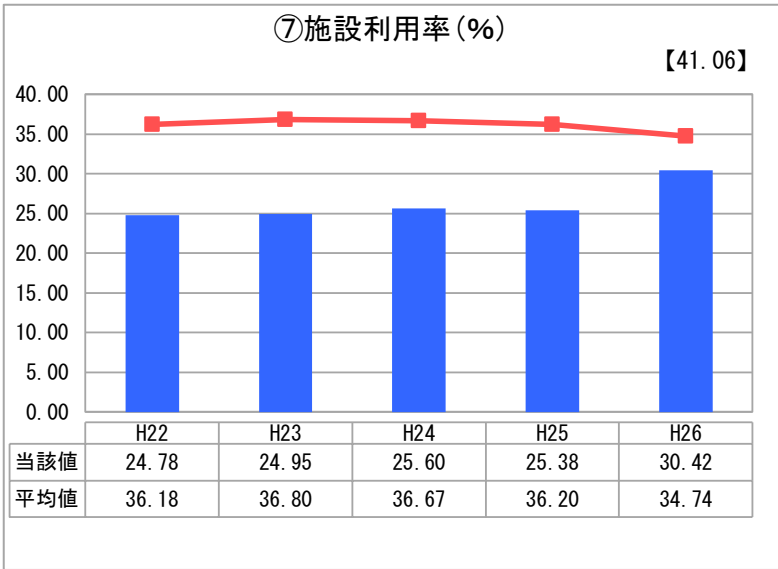
「債務残高」



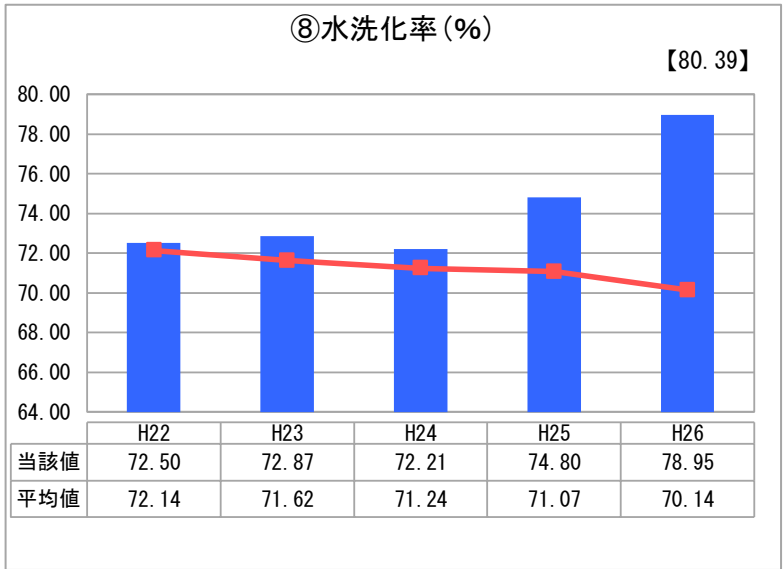
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

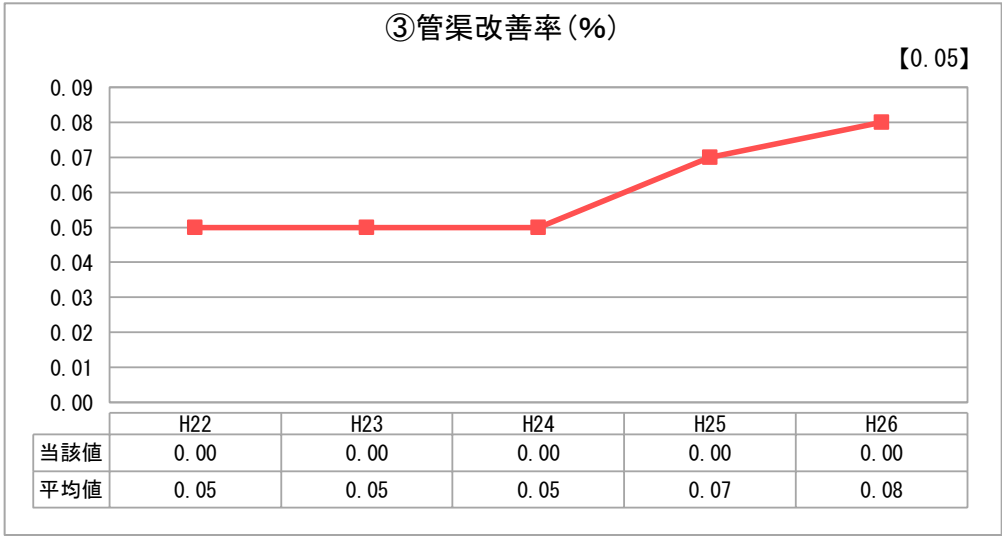
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、高率を維持しているが、水洗化率が低いことにより、経費回収率及び施設利用率が低率となっている。このため、水洗化率向上対策による下水道使用料の増加を図り、健全な経営を目指していく必要がある。

企業債残高対事業規模比率については、概ね類似団体平均値以下となっているため、適切な起債の借入であると言える。

污水处理原価については、概ね類似団体平均以下となっており、効率的な污水处理を行っていると言える。

以上のことから、より一層健全で効率的な経営に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

供用開始後約15年経過しているが、管渠については未だ耐用年数を経過していないため、老朽化は進んでいない。

しかし、今後は徐々に老朽化が進んでいくため、計画的な更新を検討する必要がある。

全体総括

類似団体と比較すると、現状では比較的良好な経営であると言える。しかしながら、この先を考えると、人口減少による使用料収入の減、施設老朽化による更新費用の増大など、厳しい経営事情が予想されることから、常に先を見据えた計画的な経営を行っていく必要があると考える。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。